

# 12

## やけどをしたとき

### 観察のポイント

- 熱湯によるやけどが最も起こりやすいものです。また、使い捨てカイロや、ぬるい湯たんぽでも長時間あたると、低温やけどになることがあるので注意をしてください。
- やけどは範囲と深さが重要です。やけどした部分が「広い」ほど、「深い」ほど危険です。

こどもは、からだの表面積の10%以上の広さをやけどすると重症です。

やけどの深さは、第1度～第3度に分類されています。

第1度：皮膚の表面が赤くなっていて水ぶくれにならない程度

第2度：水ぶくれができてきているような状態

第3度：皮下組織まで達するやけどで、皮膚が黒く焦げたり、白くなっている状態

### そんな時はどうするの？

#### しばらく様子を見ましょう

(診療時間中にお医者さんへ)

- 赤いだけで水ぶくれができていない
- 範囲が狭い第1度程度のやけど



やけどの範囲が狭く赤くなっているだけなら様子を見ましょう

#### すぐお医者さんへ

- やけどした部分が広いとき(大人の手のひらよりも広い)
- やけどした深さが第3度のやけど

範囲の広いときや深いときは冷やしながら急いで受診しましょう



## 家庭でできること

- やけどの程度が第1度または第2度の場合には、出しっぱなしの水道水や冷水でとにかく20分程度冷やしてください。服を脱がせづらいときは、服の上から冷やしても大丈夫です。
- 範囲の広いやけどは氷やぬれたタオルで冷やしたまま、受診してください。
- 水ぶくれは破らないようにして清潔にしておいてください。（感染防止のため）
- 家の中には、やけどを起こす原因がたくさんあります。事故を予防しましょう。
- 油やアロエを塗ったり、民間療法を行うことはやめましょう。



## なんでも医療相談

## Q & A

### Q どのように冷やしたらよいですか？

**A** 出しっぱなしの水道水で冷やしてください。患部に直接、勢いよく水をあてると水ぶくれを破ってしまったり、冷たすぎて長時間冷やせないなので、洗面器に受けるなどして、水の勢いを弱めて冷やしてください。

鼻や口の周辺で、呼吸しづらい場所のときは、こまめに冷えたタオルを取り替えながら冷やしてください。

全身・広範囲の場合は、衣服を脱がさずに冷やしてください。衣服を脱がせるときに皮膚がはがれてしまうことがあるので、衣服の上から水のシャワーをかけてください。ぬれたバスタオルで包み、その上から毛布をかけてくるみ、急いで病院へ行ってください。

### Q 水ぶくれは、破らない方がよいですか？

**A** 水ぶくれの中は無菌状態ですが、水ぶくれを破るとそこから菌が入って化膿する恐れがあります。水ぶくれが破れた場合は、医療機関を受診しましょう。